

病院とスポーツ

～医療現場の絆を紡ぐ～

第32回



医療現場では以前から「縦割り組織」の弊害が指摘されてきた。

部署間でのヨコの連携を密にし、いかに風通しを良くするか。

連載では、スポーツを通じて職員間の絆を深め、組織強化などに役立てている病院を取り上げる。

「愛し愛される病院」 理念を体現する象徴

医療法人社団東光会

戸田中央総合病院
(埼玉県戸田市)

下

市民ボート教室のコーチ役 パラローイング普及にも尽力

国内きっての強豪として不動の地位を築いた戸田中央総合病院ローイングクラブ。2002年のクラブ創設以来、結果を追いかけてきただけでなく、大事にしてきたことがある。活動を通じた住民との触れ合い、地域との絆を深めることだ。

代表的な取り組みの一つに、戸田市が主催し定期的に開講している市民対象のボート教室がある。クラブ所属選手を交代でコーチとして派遣、ボートの漕ぎ方といった基礎知識から競技の楽しさや奥深さなどを伝えている。こうした経験をきっかけにローイングの魅力を知り、クラブのファンになる人も。「ボートの聖地」と呼ばれる戸田漕艇場などで開かれる大会には、病院関係者だけでなく、ボート教室の参加者も大勢応援に駆けつけ、懸命に声援を送る。

トップレベルのチーム力を維持すると同時に、障がい者向けのパラローイング選手が所属しているのも特徴だ。23年12月には戸田漕艇場で、クラブ主催のパラローイング体験教室を日本ローイング協会などの協力で初めて開催。車いすの子どもらがボートに乗り、息を合わせてボートを漕ぎ、パラローイングの楽しさに触れた。

体験教室では、パラローイングで活躍するクラブ所属の坂口宥太選手や、OGで東京2020パラリンピック(21年)にパラローイング日本代表として出場した八尾陽夏選手らがコーチを務めた。ローイングとのかかわりの深



第101回全日本ローイング選手権(2023年5月)の男子フォアで連覇を達成した戸田中央総合病院ローイングクラブ

いまちにあるクラブとして、パラローイングの普及・振興の一翼を担っていくことも期待される。

1964年東京五輪の2年前に開院した戸田中央総合病院(当時の戸田中央病院)は「愛し愛される病院」を理念に掲げる。同院の中村毅理事長が代表を務めるローイングクラブは、スポーツを通じた社会貢献活動に尽力することでその理念を体現してきたと言える。

「期待に応えて結果を出しているのはもちろん、選手の努力の成果ですが、クラブを支えていただいているのは病院、地域の方々です。応援してくださる方たちのおかげで活動できていることを忘れないでほしいと思っています」と殊勝に語るのは田立健太監督だ。

選手、スタッフ一人ひとりがその言葉をしっかりと胸に刻み、新しいシーズンでのさらなる飛翔を誓う。